

観光指針に沿った統一的施策の実施に関する検討委員会検討結果

(具申)

平成30年3月28日

観光指針に沿った統一的施策の実施に関する検討委員会

1. 背景

平成28年4月1日に制定された観光指針のコンセプト、「交流人口の拡大のために、コンセプトを持って観光振興を図る」を、実現していくことを目的に、平成28年度に、「観光指針に沿った統一的施策の実施に関する検討委員会（以降、検討委員会という。）」を立ち上げ、下記項目について検討を進めた。

- ①各イベントを観光指針に沿って統一的に実施する際における課題と対策
- ②全体の活動を統一的にマネジメントする組織体のあるべき姿についての検討

合計4回の検討委員会の論議内容をまとめ、検討委員会として、下記内容について、村長に具申を行った。

- ① 実施内容の整理表等を活用し、各イベントの内容の継続的な改善を行う。
- ② 平成29年度も、観光指針に沿った各施策の統一的実施を目的に実施内容を見直すことに加え、各イベント間の調整機能をも含めた組織体を設置する。

平成29年度は、この具申内容である、各イベント間の調整機能をも含めた組織体として、検討委員会を継続して開催し、下記内容について検討を行い、村長に具申していくこととした。

- ①各イベント内容の継続的な改善
- ②持続可能性が懸念されるイベント（天山祭り、BON DANCE）の改善
- ③今後の体制案の検討

検討委員会の委員としては、平成28年度は現状整理が中心となるため、係長級を中心に選定したが、平成29年度は各課の課長にもメンバーとして参加する体制とした。

2. 調査検討事項

- (1) 観光指針に沿った各施策の実施に関すること
- (2) 各イベントの狙い、実施内容等の整理と課題について
- (3) 交流人口拡大に向けた各施策の統一的実施に関すること
- (4) 全体の活動を統一的にマネジメントしていく組織体のあるべき姿について

3. 調査検討の取り組み

(1) 平成29年 6月 28日 第1回検討委員会開催

- ① H28年度 検討委員会 具申内容の説明
- ② H29年度 検討委員会での論議内容
- ③ H29年度 検討委員会実施スケジュール案
「会議録別紙」

(2) 平成29年10月18日 第2回検討委員会開催

- ① 検討委員会実施スケジュール（修正案）の確認
- ② BON DANCE の振り返り
- ③ 個別検討会の進め方提案
「会議録別紙」

(3) 平成29年10月25日 第3回検討委員会開催

- ① 検討委員会実施スケジュール（修正）案の確認
- ② 天山祭の振り返り
- ③ 個別ワーキンググループ（WG）の説明
「会議録別紙」

(4) 平成30年 2月14日 第4回検討委員会開催

- ① 川内ふる里まつりの振り返り
- ② 個別ワーキンググループ（WG）の状況
天山祭り・BON-DANCE の進捗
- ③ 日本版 DMO について
「会議録別紙」

(5) 平成30年 2月28日 第5回検討委員会開催

- ① 川内村特産品の売上実績
- ② 地域連携 DMO（一社ノオトについて）
- ③ 被災市町村への専門家支援業務の紹介（官民合同 T）
「会議録別紙」

(6) 平成30年 3月22日 第6回検討委員会開催

- ① 具申内容について
- ② ふる里かわうち会の活動について
「会議録別紙」

4. 調査検討した経過及び結論

【結論】

① 「天山祭り」については、村民の参加者が多く、村民に愛され続けられる行事であること、次世代への継承のために、若い人の参加者を増やしていくことが重要であるとし、草野心平と村民との交流の記憶や歴史が感じられるとともに、本村の文学の分野に於ける教育的効果・価値を高めるための交流行事として位置づける。村民の参加を増やすために、草野心平、天山文庫の価値を再認識するための行事やイベント、情報発信を、村内および村外に対して実施していく。

具体的には、下記項目を行ってはどうか。

- ・草野心平、天山文庫の知名度を上げる PR（ツイッター、フェイスブックなど）
 - ・草野心平先生や天山文庫が分かるようなスライドや映像の映写
 - ・木間々庵の活用（お茶出し、干菓子販売など）
 - ・あぶくま民芸館で写真展等の開催（同時開催）
 - ・かえる好きが集まるイベントの開催（前夜祭などで）
 - ・村内の句会や料理等の勉強会や行事での、天山文庫の利用
 - ・天山文庫と草野心平企画展の開催（県内外の施設との共同開催）
 - ・川内の子ども達に対する伝承と家族ぐるみでの参加を狙った企画
 - ・うまわる文学賞の再開
- ② BON DANCE については、村を代表するイベントに育ったこと、若者主体での実施による人材育成効果を考慮し、まずは、現状の規模を維持することを前提に、外部からの資金の調達と内容のスリム化に関する検討を継続する。
- ③ 観光の推進を統一的にマネジメントする組織体については、新しい村づくり運営組織の設立検討の議論を踏まえ、継続論議とする。

【経緯】

本年度の検討委員会では、主に、①各イベント内容の継続的な改善については、各イベントの振り返りと情報の共有化を継続的に実施するとともに、②持続可能性が懸念されるイベントの改善については、天山祭りと BON DANCE の二つを取り上げ、個別 WG 形式で改善の方向性について論議を行い、③全体の活動を統一的にマネジメントしていく組織体のあるべき姿の検討については、日本版 DMO について調査を行い、その結果について共有化と論議を行った。

(1) 各イベント内容の継続的な改善

平成29年度は、天山祭り、BON DANCE、そばフェスタについて、振り返りを行い、他のイベントへの反映事項についての共有化と論議を行った。

イベントは、特産品、広報活動と並び、地域の魅力を発信し、地域に人を呼び込むために、地域をアピールする活動であること、更には、単なる交流人口に留まるのではなく、関係人口化への第一歩として、関係性の深化を図ること（参加交流型のイベント）が重要であることを踏まえ、振り返りを行った。

○BON DANCE 振り返り

- ・例年、8月15日に実施していたが、今年は翌日（16日）が平日のため、お盆に帰省されている村出身者の参加が難しいことが危惧されたため、日程を変更した。結果、前半部の出足は鈍かったものの、盆踊りの時間帯には多くの村民の参加が見られ、2000人規模の参加者となった。村内の盆踊り大会としての村民への周知浸透は、図られていると考える。
- ・屋台については、実行委員会による出店だけでなく、昨年度から、BON-DANCEの趣旨に参加頂ける団体の参加も受け入れてきた。今後は、外部からの出店を受け入れつつ、実行委員会の出店については、負担低減、費用削減、費用対効果を考え、受入拡大についても、実行委員会内で論議している。ただ、現状、各テントに知り合いがいる（実行委員がいる）というのを楽しみにしている村民や帰省者がいるため、慎重に進めていきたい。
- ・昨年度の検討委員会で議論になった、今後の財源の課題については、今年度、初の試みとして、クラウドファンディング（花火代）を行ったが、十分な告知期間を取れなかったこと、告知方法として、実行委員会メンバーの伝手のみの活用にとまっていたことなどから、金額的には十分な額を集められたとは言い難い結果であった。今後は、クラウドファンディングのやり方について更に工夫するとともに、メインスポンサーの獲得についても取り組む必要があると考えている。
- ・日程については、今まで参加協力して頂いていたアーティストの日程と、盆野球（スタッフの確保）、村内出身者の帰省日程との調整に難航した。アーティストについては、ET-KINGの参加が決まったが、今後数年間は、今年と同様な暦の並び方になるため、日程の考え方を決める必要がある。

（主な論議）

- ・震災前は若い人中心であったが、一般の人の出店についても検討して欲しい。若い人が楽しむ場、とコンセプトもいいが、継続していくには村民の協力も必要ではないか。
- ・今後の収入源の候補として想定しているクラウドファンディングとスポンサーどちらもブランディングをしっかりと行い、BON DANCEに参加するメリットを伝えられるようなストーリーづくりが必要。

○天山祭り振り返り

- ・『心平さんが生前の頃の天山祭りの再現』にこだわった。来場者数は330名（出演者、ボランティア含む）と、前年よりも多かった。ただ一般参加者が160名になると天山文庫前庭では会場の規模が小さいという課題が発生した。
- ・村の子どもの天山文庫への興味を深めることを目的に、新たな試みを行った。中学生が作詩した詩（題：ふるさと）の連詩朗読。祭りで朗読される詩を配布した（詩の視覚化表現方法について触れる）。
- ・天山祭再現の試みとして、過去の天山祭りで使われた物を調べて、祭りの日に宮城の造り酒屋から寄贈されていた「こけしのワンカップ」（この造り酒屋は、現在は廃業しているため、こけし柄のラベルのワンカップを探して入手）を献酒に使用した。
- ・ポスターのデザインを心平通にわかる物にし、郷土料理の弁当のお品書きのデザインには第7回に心平が詠んだ川内甚句をいれる等、村の子供達に天山文庫へ興味を持ってもらう為の工夫を行った。また、子供たちの弁当も郷土料理弁当にした。

（主な論議）

- ・天山祭りの開始時間は様々な事情があって決まっているが、東京から来るには早くて厳しい。言い換えると、誰でも来て楽しめる祭りではなく心平先生を知っている人が中心にならないとできない祭りである。そのため、前後をもっと有機的に繋げることをして、経済効果を含めて盛り上げていくことが大事である。また、東京からの移動時間を考慮し、開始時間を遅らせてみるのも選択肢として考えてみてはどうか。
- ・昔の天山祭りは都会からも人が来ていて3日間ぐらいどんちゃん騒ぎをしていた。若い人もいたし地域の人とも交流があった。その理由として、昔は1品持ち寄ってやったというのがあったり、スポンサー（柏屋・花春）もついていた。また、昔は全庁的な取り組みであったので役場の職員は皆でしていた。
- ・天山祭りは、もともとは、草野心平と村民との触れ合いの場、として始まった。今後どうしていくかは、そういったものも含めて考える必要があるのではないか？
- ・新たなやり方を考えるのには、婦人会、区長会にも入って貰って、祭りに対する思いをしっかりと確認して進めていく、必要がある。
- ・今年の天山祭りには例年より多く、300人来たと聞いている。天山祭りの今後の在り方を検討するのは、必ずしも沢山の参加者を集めるという趣旨ではなく、50回以上途切れることなく続いているが、さらに50回続けようと考えたら、このままで良いのか？という問題意識からでている。
- ・草野心平はこんな人だった、というのを感じられる内容を盛り込んだらよいのでは？
- ・婦人会の料理やジंकの歌詞など、人間臭いところから入っていけるのが良い。

- ・秋元さんや、矢内さん等に、人となり話を話してもらいたいと思う。
- ・若い人を中心に、草野心平さんの人気が出ている。川内村自体を擬人化するようなことも見られる。これらを上手く取り込んでいけたらと思う。
- ・天山文庫の新しい管理人は若いけれど、草野心平に興味を持って、3日1冊のペースで関連書籍を読んでいると聞いている。草野心平に興味を持ってきている若い管理人となったタイミングで、より良くなっていけば良いのではないかなと思う。
- ・天山文庫自体を風通し良くし、交流の場とするのも良いと思う。
- ・福島大学でも、天山文庫を学術的な観点からの研究対象として捉え、保存、利活用について前向きに考えていると聞いている。上手く協力できると良いのではないかな。
- ・天山祭りは、心平先生が生前から行っている、「奇祭」の一つだと思っている。心平先生が遺してくれたものをどう残していくのが課題である。晒名 昇（さらしな しょう）さんが会長になった時に、詩の朗読について細かい指示があった。子供たちにどうやって草野心平を伝えていくかが課題である。学校教育の中にいれる等も選択肢ではないかな。
- ・文学賞（草野心平賞）をつくり、小学校・中学校・村外に呼びかけをおこなっていくのはどうか。ただ文学賞の名称を『草野心平賞』とすることについては草野心平先生が「やめてくれ」と言われて、『うまわる文学賞』となった経緯もあり、慎重に検討する必要がある。
- ・うまわる文学賞を再開させるのはどうか。うまわる文学賞を再開させるねらいは子供たちを教育していく事と、一般の人にも参加してもらおう事であるので村外にも呼びかけた方が良い。
- ・天山祭りの趣旨は、文化的な祭りというだけでなく、当時、中央とのつながりを大切にする、という事でもあった。今回の参加人数を考えると沢山の交流が図られたと思う。次回につなげていくには、「心平先生が残してくれたものをどういう風にブラッシュアップしたらよいか」、また「子供達にどういう心平先生を伝えていくか」を考えないといけない。
- ・日曜日にも天山祭りに繋がる行事等があると、村にもお金を落として頂ける。
- ・7月の天山祭りに向けて5月・6月の期間を有効に利用し、祭りのピークをもっていくようにすべきではないか。例えば、平伏沼には、心平先生の記念碑、しんこうさんの句碑、長福寺のつじまことさんの話等も含めながら、祭りにピークを持っていくというのが良いのでは。

- ・天山文庫の管理運営についての在り方も、考える必要があるのではないか。

○川内ふる里まつり（そばフェスタ）振り返り

- ・「地域文化や地場産業等の交流」及び「健康づくり」をテーマにして開催した。
- ・川内ふる里祭りを契機に村の地域文化等の継承と周知をするとともに、県内外の市町村と伝統芸能、食文化、地場産業等の交流を行うことで交流人口の拡大を図った。
- ・10月21日（土）から10月22日（日）の2日間開催し、来場者数は昨年より少ない約1000人であった。理由としては雨が降り続いたためと考えられる。
- ・カラオケ大会により、村民の出番を設けることで、出演者の関係者に多く参加頂いた。
- ・会場内（ヘリポート）の水たまりが多く発生した為に来場者も出演者も足元が悪くなった。悪天候に備え、ステージの大型化、コンパネによる通路の足元対策を行ったが、今後は開催場所の選定を含め雨天時の対策も課題のひとつである。例えば、すわの杜公園や工業団地内に会場を移して行えば、移住者との交流もより活発に図れる可能性があるため、良いのではないかという意見もあった。

・健康づくり

モリタロウ健康体操、AED講習、血管年齢測定、献血車設置

・伝統芸能の披露

よさこい、浦安の舞、川内フラ教室、他

・食文化（農産物特産品等の販売）

いわなの郷、(株)コドモエナジー、遠藤きこの園、緑里、

・県内外の市町村との交流拡大

北海道士別市、宮城県女川町、みやこじスイーツゆい、なみえ焼きそば、他

・来場者参加型交流イベント

カラオケ大会、伊達悠太歌謡ショー、ビンゴ大会、

全建総連、昔あそび体験、キッズパーク、他

(2) 持続可能性が懸念されるイベントの改善

「天山祭り」、「BON DANCE」の今後のあり方を検討するにあたり、下記メンバーによるWGを設けて検討を進めた。

<天山祭りWG>

秋元洋子（天山祭副実行委員長）、観光協会、志賀風夏、大田、宮内、市川、西山（孔）

<BON DANCE>

秋元活廣、三瓶義浩、高森亮輔（以上BON DANCE実行委員会）、大田、市川、

西山（孔）

以上敬称略

○各 WG での論議内容

<天山祭り>

WG では、村民に愛され続けられない、村民の参加者数が減っていく「天山祭り」になってしまっただけで残っていかれないのではないかと、という問題意識を踏まえて、下記考え方に沿って改善策を考えていくこととした。

- ・村民に愛され続け、村民の参加が多い天山祭りであり続けることが重要である。
- ・同時に、若い人の参加を増やしていく（次世代への継承）ことが必要である。
- ・天山祭りは、草野心平と村民との交流の記憶や歴史が感じられるとともに、文学の分野に於ける教育的価値・効果を高めるための行事として位置づける。
- ・草野心平、天山文庫の価値を再認識することを目的に、村民や村内外の心平ファンを対象に、関連イベントの開催や情報発信などを積極的に行う。

具体的には、「天山祭りに参加していない村民に」「若い心平ファンに」等のターゲットを想定し、関連行事や天山祭りに関するアイデア出しを行い、整理した。

<BON DANCE>

2,000 人規模まで育ったイベントであるので、「これまで通りの規模で継続させる事」を前提に、別の財源を確保することを考える。

- ・現状規模を前提とした場合、経費を見直しても 330 万円不足するため、どのように資金調達をするのが課題である。
- ・クラウドファンディング、スポンサー獲得等を狙うが、BON DANCE の意義、目的、狙い、出資者のメリット等をまとめる事が必要との認識に至り、次年度後半を目途に、外部有識者の力を借りてまとめることも視野に入れて進める。

BON DANCE 等、イベントの資金調達について、官民合同チームの外部専門家派遣事業の活用ができないか問い合わせたが、個別イベントの歳入確保に対する支援は難しいとの回答であった。観光に関する支援としては、「地域ブランドの確立」「観光戦略立案」に対する支援メニューとなるとのこと。

(3) 全体の活動を統一的にマネジメントしていく組織体のあるべき姿

昨年度、本検討会において各イベント間の情報共有を進めてきた結果、各イベント間の連携を図っていくためには、実行組織間の連携も重要である。次年度以降の体制を検討するための参考情報として、日本版 DMO について調査を行い、参考事例（福島県関連、優良事例、規模的に川内村に近い自治体）をまとめた。日本版 DMO 導入の背景にある課題は、本検討会で課題としている内容と殆ど重なっていることが分かった。

次年度以降の組織体の検討については、昨年末からスタートした、新しい村づくりの運営組織についての論議も踏まえ、引き続き論議していく必要があると考える。

(4) その他

<かわうちスタイルについて>

- ・川内スタイルというのをしっかり伝えられるようにすべきである。川内の魅力は、暮らしのあり方だと思う。その価値観を統一的に言葉で表現できるようにしたい。4つなり5つになるかもしれないが、キーワードを含むセンテンスを作りたい。

<道の駅について>

- ・小野一富岡線のバイパス化が平成30年台前半の早い時期に完成するが、それに合わせて新たな拠点づくり（道の駅）の検討が必要ではないか。インフラ整備と併せ交流拠点としての道の駅の機能の整理を早急に進めるべきではないか。

<川内村特産品について>

- ・川内村の特産品として既存の商品では贅沢ごはんとスモークがあるが、アヒージョ・炙り・みそDIP・その他（川内みそ、いわなジャーキー、チップス、寒風干し、乾燥しいたけ）を新しく特産品として販売した。
- ・特産品の販売実績としては1年間で約6,000点の販売実績があった。また、既存の商品はご飯とスモークであるが、特産品ブランド確立事業「水清らか川内村」を通して拡充した新規商品（アヒージョ等）の販売効果もあり、売上が2.3倍になった。理由としては、統一されたデザインのパッケージの青が目立ち、商品群が存在感を持っている事や、人気商品（アヒージョ）ができた事が挙げられる。
- ・いわなの商品は全ての人が買うわけではないので焼き菓子などをラインナップに加えてはどうか。
- ・ターゲットごとにメインになる商品を変えている。商品ラインナップの拡充により、売れ行きが向上しているので販売する商品アイテム数を増やしたいが、あぶくま川内だけでは人の問題もありこれ以上は難しい。
- ・昨年度は、そばの生産が不況であったため、そば関係の新商品開発を控えた経緯がある。又、初年度のモニター調査で人気のあった季節の商品（凍みもち等）は、事業スケジュールに含まれないなどの課題もあり、上手く取り込めていない。川内村にはえごま関連商品もあるので既存の商品を含めた商品ラインナップの拡充が今後の課題の1つである。
- ・ふるさとかわうち会で、特産品の販売コーナーを設けるので、上手く宣伝に繋がれると良い。

<官民合同 T の被災市町村への専門家支援業務について>

- ・官民合同チームの支援内容の中に地域ブランディング推進支援、観光戦略策定・推進支援がある。又、田村市が観光ブランディングにて活用しているの、観光分野での官民合同チームの活用という選択肢もあるのではないかと意見があった。

<地域連携 DMO（一般社団法人ノオト）について>

- ・事業としては古民家を再生することで地域の再生を図るので川内村の空き家活用に参考になるのではないかと。
- ・集落丸山は規模的にあっている。また古民家の魅力を伝えて交流人口の拡大を目的にしているの参考になるが、城下町の方は規模が大きすぎるとの意見があった。小さく始めて、周辺との連携により規模を拡大していく戦略は参考になるのではないかと。

<空き家バンクについて>

- ・4月から空き家、空き地バンクを開始する。
- ・福島県宅建協会と一緒に空き家対策（所有者がわからない等）を行うもので、村が村民に向けて空き家や土地を募集する。
- ・南相馬の空き家バンクを参考にしている。
- ・仏壇や家財道具の整理、廃却、運搬にコストがかかるので県の補助等が利用できる様になればよいのではないかと。

<マラソン大会でのホテル檜葉との連携について>

- ・檜葉町で最近ホテルがオープンした。近隣で宿泊所が多くなるとイベント時に人が来やすくなる。檜葉町ではバス会社もあるので、例えば、マラソン大会の参加者を東京駅発で、檜葉のホテルに前泊し、マラソン大会の会場まで送迎し、東京駅まで送るというツアーを造成する等、上手く連携することで、双葉郡に都会から人を呼び込めるのではないかと。

結論)

- ① 「天山祭り」については、村民の参加者が多く、村民に愛され続けられる行事であること、次世代への継承のために、若い人の参加者を増やしていくことが重要であるとし、草野心平と村民との交流の記憶や歴史が感じられるとともに、本村の文学の分野に於ける教育的効果・価値を高めるための交流行事として位置づける。村民の参加を増やすために、草野心平、天山文庫の価値を再認識するための行事やイベント、情報発信を、村内および村外に対して実施していく。

具体的には、下記項目を行ってはどうか。

- ・草野心平、天山文庫の知名度を上げる PR（ツイッター、フェイスブックなど）
 - ・草野心平先生や天山文庫が分かるようなスライドや映像の映写
 - ・木間々庵の活用（お茶出し、干菓子販売など）
 - ・あぶくま民芸館で写真展等の開催（同時開催）
 - ・かえる好きが集まるイベントの開催（前夜祭などで）
 - ・村内の句会や料理等の勉強会や行事での、天山文庫の利用
 - ・天山文庫と草野心平企画展の開催（県内外の施設との共同開催）
 - ・川内の子ども達に対する伝承と家族ぐるみでの参加を狙った企画
 - ・うまわる文学賞の再開
- ② BON DANCE については、村を代表するイベントに育ったこと、若者主体での実施による人材育成効果を考慮し、まずは、現状の規模を維持することを前提に、外部からの資金の調達と内容のスリム化に関する検討を継続する。
- ③ 観光の推進を統一的にマネジメントする組織体については、新しい村づくりの運営組織の設立の議論を踏まえ、継続論議とする。

5. 添付資料

- ・検討委員会議事録（第1回～第5回）
- ・BON DANCE WG
- ・天山祭り WG
- ・日本版 DMO 候補法人まとめ（表）
- ・一社）ノオト概要資料
- ・川内村特産品の売上実績
- ・被災市町村への専門家支援業務について（福島相双復興官民合同チーム）

以上